

伝統を守り抜く英国

[文書のサブタイトルを入力]

【ロンドン・シティに今も残るロイヤル・エクスチェンジ】

ロンドン金属取引所とは？

ロンドン金属取引所（London Metal Exchange、以下LME）は、ロンドンにある世界最大規模の非鉄金属専門の取引所です。

現在、LMEは、銅・鉛・亜鉛・ニッケル・錫・アルミニウムなどの非鉄金属取引の世界的な取引の中心地であり、その取引価格を公表することにより非鉄金属の国際価格を牽引する役割を担っています。LME相場は非鉄金属相場の世界的な指標となっています。

【ロンドン・シティにあるロンドン金属取引所（LME）、2016年に当地へ移転し、最新の設備に入れ替わった】



ロンドン金属取引所（LME）の歴史

LMEの歴史は古く、1877年に正式に設立されて以来、LMEは産業用金属の取引の中心であり続けています。

さらに、LMEの起源は、エリザベス1世統治の1571年にロンドンで開催されたロイヤル・エクスチェンジの開始まで遡ることができます。



19世紀初頭までは、英国は銅と錫を自給しており、その価格も固定されていましたが、産業革命により、英国は海外から大量の銅や錫などの非鉄金属を輸入することとなりました。当時はチリやマラヤ連邦などから輸入していたため、数か月後の船の到着時に価格が変動するリスクに晒されていました。

1869年、スエズ運河の開通により、チリからの銅の輸入にかかる日数は約3ヶ月に短縮され、今でもLMEでの先物価格は3ヶ月ものが取引の中心となっています。

ロンドン金属取引所（LME）での取引

LMEでは、アルミニウム・銅・鉛・ニッケル・錫・亜鉛などの非鉄金属からプラチナ、コバルト・モリブデンといったマイナーメタルまでが上場され取引されています。

その取引方法には、「リング取引」「カーブ取引」「電子取引」があり、「リング取引」はリングと呼ばれるサークル内での場立ち取引の伝統的なスタイルのものです。LMEのリングメンバーは英国法人でなければなることができず、場立ちも家筋が決まっており、誰でもなれるものではないそうです。

よく言えば「古き良き」伝統的なスタイルですが、一方で時代遅れと感じざるを得ないスタイルともいえます。

【19世紀よりおこなわれるサークル内での場立ち取引―「リング取引」】



【LME内に飾られているプレート―1877年設立の刻印】



英国の歴史としたかさ

世界の非鉄金属先物取引の8割を占めているといわれるLMEですが、実は2012年に香港証券取引所が約1,700億円を買収しています。

ところが香港証券取引所による買収から5年以上が経った今も、ロンドン・シティのLMEは香港へ移転することなく、そして古き良き「リング取引」が消滅することもなく、LMEでは日々活発な取引がおこなわれ続けています。

もちろん、香港証券取引所の株主構成に中国系の資本より大手欧州銀行系などが大半を占めることも理由に挙げられるでしょうが、長い歴史の中で脈々と非鉄金属の取引を複雑に取り決め、雁字搦めにし、やすやすとは他国に渡さない英国のしたたかさも感じられます。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。